

# 白旗地区

白旗地区は町の北端の平野部及び山間部に位置します。

白旗の名は、鎮西八郎為朝が立てた白旗、または雁回山から放った白羽の矢に由来するといわれています。中世には、阿蘇大宮司の拠点であった矢部（山都町）から緑川中流域に出てくるための家臣団の拠点として繁栄し、早川城跡をはじめ多くの阿蘇氏関連文化財が認められます。また、円福寺跡阿弥陀如来坐像からは、大日本国西海道肥後州益城郡甘木庄早川村の記載がみられ、当時の地域観を読み取ることができます。



からさき  
193. 辛崎神社 (所在 中早川区)

中早川橋上流右岸の階段を上ったところにあります。

入母屋造瓦葺妻入の社殿で、祭神は素戔鳴尊です。社殿の厨子には中央に鏡、左右に神像が祀られています。

境内には高さ48㍍、幅24㍍の石造馬頭観音坐像が祀られています。この馬頭観音像は三面六臂の姿で、正面は合掌し、左側は斧と剣、右側は宝珠と剣を持っています。

建立年及び再建年等は不明ですが、社殿に掲示された木札によると「平成元年(1989)10月2日修理」と記されています。



194. 照月山 浄林寺 (所在 早川区)

宗派は浄土真宗大谷派で、本尊は阿弥陀如来です。

本堂は入母屋造瓦葺平入です。

『上益城郡誌』によると、僧順益が寛文5年(1665)7月、熊本市宝町(中央区迎町1丁目)に創建し、宝永6年(1709)寺号を浄林寺と改め、熊本市河原町(中央区河原町)へ移転しましたが、明治10年(1877)2月、西南戦争で焼失しました。そのため、明治44年(1911)に現在地に移転の許可を受け、大正6年(1917)6月に移転したとされています。



195. 養寿院 (所在 早川区)

北早川区の山裾にあります。

切妻造瓦葺妻入のお堂で向拝があり、祭壇には三つの厨子が並びます。中央の厨子は高さ90㍍で、総高48㍍の石造不動明王立像と黒く焼けた仏像が、左の厨子には総高45㍍の木造薬師如来坐像、右の厨子には総高34㍍の木造地藏菩薩坐像が祀られています。

養寿院は早川巖島神社の神宮寺で、『国郡一統志』には「養寿院不動 地藏」、『肥後国誌』には「禅の古迹ト云早川村三社明神ノ宮寺」と記されています。



## 196. 養寿院跡の石造物群 (所在 早川区)

養寿院の裏に16世紀前半から半ばに建立された三基の無縫塔を含む多くの石造物があります。

この内、主な砂岩製の三基は次のとおりです。

①高さ85㍉、最大幅64㍉、最大厚29㍉で、天文3年(1534)9月25日に建てられた漸讀大乘妙典一千部塔です。②高さ64㍉、最大幅46㍉、最大厚16㍉で、養寿院を中興した「天用□□公座元禪師」の預修を行って大永3年(1523)10月20日に建てられた供養塔です。③高さ37㍉、最大幅30㍉で月輪の中に地藏菩薩を表す「カ」の種子が刻まれ板碑です。



## 197. 玉堂山 <sup>ぎよくしょうじ</sup>玉祥寺 (所在 早川区)

宗派は日蓮宗で、本尊は日蓮聖人図頭の十界大曼陀羅です。

本堂は御拝口のある入母屋造瓦葺妻入で、切妻瓦葺の山門があります。

『甲佐町史』によると、元々、佐賀県小城郡三里村にあったものを、明治30年(1897)12月25日早川下小塚523番地に移籍、明治37年(1904)7月東心敬上人創立となっています。また、初代心敬が玉祥寺の基盤を作り、大正9年(1920年)第三世義照上人の代に現在の地に移転しています。



## 198. 承陽山 <sup>さいふくじ</sup>西福寺 (旧：浄陽山西福寺) (所在 上早川3区)

宗派は浄土真宗本願寺派で、本尊は阿弥陀如来です。

新本堂は入母屋造瓦葺平入で、並列して建つ旧本堂は、寄棟造瓦葺で内陣には鹿里区の釈迦如来像が祀られています。境内には地藏像二体があります。

『甲佐町史』によると、天正8年(1580)、島津氏(薩摩)と手を組み、阿蘇家に反旗を翻した隈庄城主甲斐守昌と阿蘇惟将家臣の甲斐親直らが争った隈庄合戦で戦死した早川(渡邊)休雲吉久の嫡子の石見守吉行が入道して空円と号し、天正13年(1585)に創立したとあります。

なお、『新甲佐町史』によると、寛永18年(1641)開基とあります。



## 199. 宮地獄神社（所在 早川区）

玉祥寺から約 50<sup>分</sup>北東の階段上にあります。

本殿・拝殿ともに切妻造瓦葺妻入です。本殿内には、屋根幅 75<sup>センチ</sup>、間口 46<sup>センチ</sup>、奥行 20<sup>センチ</sup>、高さ 32<sup>センチ</sup>の木製厨子がありますが、厨子の扉が閉まっております。御神体は不明です。厨子の傍らに直径 12<sup>センチ</sup>の鏡があります。

本殿の扉は通常施錠されています。



## 200. 早川菅原神社（早川三社）（旧：菅原神社）と早川天神像（所在 早川区）

早川六地藏（町指定文化財）から山中に約 70<sup>分</sup>登った中腹にあります。

拝殿と本殿は切妻造瓦葺平入です。

早川菅原神社は早川三社宮の一つで、『国郡一統志』には、「宮嶋明神 熊野権現 本地堂 弁財天 天神」と記され、『肥後国誌』には、「巖島大明神宮 熊野権現宮 天満宮」とあり、このうち「天神」「天満宮」に比定されます。祭神は菅原道真です。

養寿院下の個人宅には、道真坐像（早川天神像）と随神像のかどもりのかみ 閻神・かどおさ 看督長が祀られています。



## 201. 早川熊野座神社（早川三社）（旧：熊野座神社）（所在 早川区）

早川菅原神社より早川山へ更に約 15 分登った中腹の杉に囲まれた平坦地にあります。

流造銅板葺平入の本殿は、渡りにてトタン葺平入の拝殿と繋がっています。

祭神は伊邪那岐命、伊邪那美命となっていますが、地元の方によると、「御神体等は巖島神社に祀ってある」とのことでした。本殿の中には、幅 80<sup>センチ</sup>、高さ 90<sup>センチ</sup>、奥行 50<sup>センチ</sup>の木製の厨子が残されており、現在は年に 2 回社殿周りの掃除が行われています。

『国郡一統志』には熊野権現本地堂弁才天、『肥後国誌』では熊野権現宮、『甲佐手永神社本末』には熊野権現（巖島宮末社）、更に『明治十二年神社明細帳』には村社熊野座神社と紹介されています。地元の人達は早川三社のひとつとして信仰していたようです。



## 202. 早川の宝篋印塔 (旧：早川宝篋印塔) (所在 早川区)

西福寺と薬王寺の間にある竹林の中にあります。

宝篋印塔は溶結凝灰岩製で、高さ220センチ、最大幅65センチです。標柱には「隈庄合戦で戦死した早川城主・渡辺休雲の墓碑」とされていますが、近年の調査により、塔身には「前念不生即心／和山雪心居■(土)／後念不滅則佛」、基礎石には「永禄八年(1565)／二月十二日也」とあり、「和山雪心居■(土)」の塔であることがわかりました。



このことから、本塔の建立が、永禄8年(1565)2月12日であり、隈庄合戦は、同年3月10日であることから、渡辺一族とみられるものの、渡辺休雲の墓碑ではないようです。

この宝篋印塔の左には板碑様の墓塔、右には五輪塔の残欠など戦国期の石造物が多数みられます。板碑様の墓塔は高さ63センチの安山岩製の小塔で、上部に月輪を刻みその中に卍を平彫りし、その下に「天正十四年(1586)／爲妙臺大姉之也／六月二五日」と銘文を刻んでいます。

## 203. 長石山 薬王寺 (虚鐸山 薬王寺) (旧：薬王寺長石山) (所在 早川区)

宗派は曹洞宗で、本尊は薬師如来と観世音菩薩です。

入母屋造瓦葺の本堂には御拝口があり、境内には瓦葺の山門や「薬王寺の宝篋印塔」(町指定文化財)等の石塔、あけがらすはや暁烏敏の石碑もあります。

『甲佐町史』によると、北朝の暦応2年(延元4年)(1339)の薬王寺了性の建立とあります。また、大慈四世当山開祖愚谷常賢大和尚禅師ともあり、定かではありません。また、靈感院(細川重賢)等の名も見られ、由緒深い寺と思われます。しかし、文政6年(1823)には無住となっており、明治以降は堂守さんによって守られてきました。



## 204. 早川巖島神社（早川三社）（所在 早川区）

国道 443 号線から早川区に入ると、山裾に朱色の鳥居が見えてきます。

本殿は切妻造平入、拝殿は入母屋造平入、主祭神は宗像三女神（むなかたさんじょしん たごりひめのかみ たぎつひめのかみ いちきしまひめのかみ田心姫命・湍津姫命・市杵島姫命）で、創建は奈良時代中期の宝亀 2 年（771）とされています。

『国郡一統志』には「宮嶋明神」、『肥後国誌』には「巖島大明神」と記されています。

境内の案内板によると、大祭は 10 月 8 日～ 10 日  
かけ、早川三社（巖島神社、熊野神社（権現宮）、菅原神社（天神宮））祭りとして行われます。

なお、境内の隅には力士の石像が二体あり、この力士像は江戸相撲の第 8 代横綱の不知火諾右衛門しらぬいだくえもん（宇土市栗崎出身）の活躍を期に寄進されたものです。平成 28 年（2016）熊本地震により被災しましたが、地元の方々によって修復されています。



## 205. 早川の猿田彦大神（所在 早川区）

早川巖島神社の境内にあります。

嘉永元年（1848）の建立で、高さ 185 ㍉、最大幅 80 ㍉、最大厚 30 ㍉、台座は二段で上段 25 ㍉、下段 70 ㍉です。

『新甲佐町史』によると、当初から早川巖島神社の境内に祀られていた、とあります。



## 206. 北早川菅原神社（所在 北早川区）

北早川区の山裾の丘陵地にあります。

本殿は、切妻造瓦葺妻入です。鳥居は、朱色で山側にあります。

由緒等は『国郡一統志』、『肥後国誌』には記載がなく、『肥後国上益城郡神社明細帳』の「蓮町 菅原神社」を北早川菅原神社に比定できます。以前は、神社の大木で子ども達が遊んでいたようです。

平成 28 年（2016）熊本地震により被災しましたが、地元の方々によって修復されています。



## 207. 北早川の猿田彦大神 (所在 早川区)

熊本バス下早川バス停から集落へ約 200<sup>㍎</sup>の三叉路の個人宅にあります。

文政9年(1826)の建立で、高さ100<sup>㍎</sup>、最大幅60<sup>㍎</sup>、最大厚20<sup>㍎</sup>、台座は32<sup>㍎</sup>です。左脇には2体の地蔵が祀られています。

町内の猿田彦は19世紀の江戸時代後期から明治にかけて建てられています。北早川の猿田彦大神は、現存するものでは町内で最も早く建立されたものです。

祭日は7月の第1日曜日の川祭りと同じです。



## 208. 四堂崎阿弥陀堂 (所在 糸田区)

竜野川の右岸四堂崎地区にあります。

阿弥陀堂は、切妻造妻入の拝殿と切妻造平入の本殿で、拝殿天井には、花の絵が描かれています。厨子には格子窓があり、阿弥陀仏と馬頭観音が祀られています。総高52<sup>㍎</sup>、像高37.5<sup>㍎</sup>の阿弥陀如来像は放射光背を負い、台座は蓮華台です。

四堂崎は養寿院の境内地で、『肥後国誌』には糸田村内の阿弥陀三尊と古墳墓がある地点を四堂崎と呼び、養寿院跡としています。『拾集昔語』によれば北早川村の四堂崎辺りは、養寿院の地続きの境内であろうと記しています。

平成28年(2016)熊本地震により被災しましたが、地元の方々によって修復されています。



## 209. 四堂崎庚申塔 (所在 糸田区)

四堂崎阿弥陀堂の左脇にあります。

土台はコンクリートで固められ、元の大きさは不明ですが、現在の大きさは高さ63<sup>㍎</sup>、最大幅37<sup>㍎</sup>、最大厚24<sup>㍎</sup>の自然石です。

庚申とは、六十日に一度廻ってくる庚申のことを言い、この日の夜、人が眠ると三戸の虫が体内から抜け出して天帝に日頃の罪を告げに行くため、命が縮むとされています。そのため、村の入口に庚申塔を建てて、庚申の夜は座元の家に徹夜で立て籠もり、庚申塔を魔除けにしていました。建立時期等は不明です。

地元の人達は「阿弥陀堂・庚申塔・経塚」を一緒に10月15日に僧侶を招き、供養しています。現在甲佐町にある庚申塔はここだけです。



## 210. 四堂崎の経塚（所在 糸田区）

四堂崎阿弥陀堂の右側にあります。

経塚は高さ 62㍍、最大幅 27㍍、最大厚 27㍍の砂岩製です。

「天文2年（1533）3月20日に玄祐が、大乘妙典一千部を読誦し、その内、六十部を阿弥陀堂の隣に埋めた。」と緒方家文書に記されています。

現在でも一年毎の当番制により、10月15日には僧侶を招き、同境内にある「庚申塔・経塚」と共に供養が行われています。



## 211. 四堂崎の三尊板碑（所在 糸田区）

四堂崎阿弥陀堂より約 30㍍南の個人宅角地にあります。

板碑は四角形で高さ 78㍍、最大幅 60㍍、最大厚 27㍍の砂岩製です。

碑面には三尊の種子が刻まれており、上部に主尊の阿弥陀（キリーク）、下部右には脇侍の観音菩薩（サ）、左には勢至菩薩（サク）が刻まれています。また、記年銘から大永4年（1524）に建立されています。

碑面の剥離が進み、種子や文字が見辛くなっています。



## 212. 四堂崎逆修碑（旧：四堂崎経塚）（所在 糸田区）

四堂崎阿弥陀堂より約 30㍍南の個人宅敷地内にあります。

板碑は、丸みを帯びた五角形で、高さ 113㍍、幅 130㍍、厚み 34㍍です。碑文によると、建立年は大永5年（1525）で、中央上部には阿弥陀如来像が彫られ、その下には「于時大永五（525）乙酉天十月廿七日」と刻まれています。その右側に「現世安穩（53名法名）後生善処」、左側に「逆修善根 功德主各 53名法名」と刻まれています。

総勢 106 名の人々によって、現世の安穩と後世（来世）の善処を願い、自らの極楽往生を祈って建立された逆修碑（結衆板碑）です。

『肥後国誌』には、「弥陀ノ三像並古墳墓ノ在ル所ハ四堂崎トテ養壽院ノ廢迹也」と板碑について記してあります。



### 213. 植木阿蘇神社（所在 糸田区）

糸田区の東側にあります。

神明造平入の本殿は慶長14年（1609）の創建とされ、祭神は彦御子神ひこみこのかみと若比咩神わかひめのかみで、祭日は10月9日です。入母屋造の拝殿には、天井に花が描かれた格子天井があり、絵馬も飾られています。

『緒方家文書（古今集覧、町指定文化財）』には「糸田に氏神無シ、植木ヲ致シ、其所ヲ村ノ明神ト名付ケ」と記され、植木のあった場所を意味すると考えられます。『国郡一統志』には「植木明神」、『肥後国誌』には「植木大明神」と記されています。

平成28年（2016）熊本地震により被災しましたが、地元の方々によって修復されています。



### 214. 観音堂（所在 糸田区）

上糸田地区にあります。

切妻造瓦葺平入のお堂は、間口402㍍、奥行490㍍、向拝200㍍です。中には2つの木製厨子があり、中央の厨子は間口59㍍、奥行30㍍、高さ120㍍で、総高83㍍、像高63㍍の円光背を負い、朱・金で彩色された木造十一面観音菩薩立像が祀られています。台座は蓮華台です。

右の厨子は間口56㍍、奥行34㍍、高さ125㍍で、総高85㍍、像高65㍍の左手には蓮の花を持つ木造観音菩薩立像が祀られています。左には厨子はなく、台座30㍍の上に像高50㍍の石像坐像が祀られています。



### 215. 糸田の板碑（所在 糸田区）

糸田観音堂の境内にあります。

上部の月輪内に阿弥陀如来の種子「キリーク」があり、その下には「道玄信男／逆修善根主／妙玄信女／皆天正十九年（1591）辛卯七月二日」と彫ってあります。

緒方家文書（古今集覧）には、  
「一、此道玄信男ハ、糸田邑庄鶴ノ名主、浪人俗名緒方監物ト云

一、此妙玄信女ハ、佐渡越前守ノ息女也（略）右監物夫婦死去年月不知、法名勿論不知」とあります。その後子孫が夫婦の亡くなった年月等を考えてこの逆修碑を建てたと記しています。



## 216. 糸田の猿田彦大神（所在 糸田区）

糸田公民館前にあります。

天保13年（1842）の建立で、高さ160センチ、最大幅65センチ、最大厚30センチ、台座は二段で上段35センチ、下段40センチです。

右脇には養蚕神が祀られています。

祭日は9月17日の子ども相撲と一緒に行われます。



## 217. 糸田水神（所在 糸田区）

熊本バス糸田バス停下（緑川右岸）のグラウンドの端にあります。

水神は、縦180センチ、横198センチの石造の玉垣の中に祀られています。中には、高さ70センチ、幅26センチ、厚さ23センチの「水神明王」と刻まれた石碑があり、緑川に向かって建っています。

糸田水神の両脇には巨木があり、左は幹回り350センチのエノキ、右は幹回り420センチのケヤキです。



## 218. 垣原水神（柿原水神）（所在 辺場区）

白旗小学校の約300メートル北の水路沿いにあります。一辺が114センチと118センチの石造の玉垣の中に自然石が祀られています。

加藤清正の治水工事にあたり、垣（柿）原孫三郎鎮基しげもとが普請奉行として活躍、工事の際に水神を祀ったが、彼の死後村人が「垣（柿）原水神」として、特に牛馬の守護神として尊びました。

この水神は、『肥後国上益城郡神社明細帳』に「水神社」と記されています。

平成28年（2016）熊本地震により被災しましたが、地元の方々によって修復されています。



## 219. 辺場阿弥陀堂（所在 辺場区）

辺場公民館より約30<sup>㍎</sup>西にあります。

お堂は間口214<sup>㍎</sup>、奥行205<sup>㍎</sup>、高さ190<sup>㍎</sup>で、像高67<sup>㍎</sup>、総高95<sup>㍎</sup>、台座は二段で12<sup>㍎</sup>と15<sup>㍎</sup>の輪光背を負い、印を結んだ木造阿弥陀如来立像が、その横には古い仏像も祀られています。

言い伝えによると、加藤清正が緑川改修の際、川の要衝毎に阿弥陀堂を置いたとされています。

平成28年（2016）熊本地震により被災しましたが、地元の方々によって修復されています。

祭日は1日と15日です。



## 220. 金戸水神（火の神）（所在 辺場区）

辺場公民館裏の道路沿いにあります。

石造の玉垣は高さ97<sup>㍎</sup>、一辺が150～160<sup>㍎</sup>でコの字に三辺を囲っています。中には高さ65<sup>㍎</sup>、幅40<sup>㍎</sup>、厚さ10<sup>㍎</sup>の「水神」と刻まれた自然石が御神体として祀られています。

言い伝えによると、八代で大火事があった時、空中を飛んできて、辺場に鎮座されたとのこと。

地元では、『かなどうさん』と呼んでいます。また、「御神体は堂宇を造らず風雨にさらすべし、そうすれば火事になるべし」として、“火ぶせの神”として村人の信仰を集め、以後、辺場には火事がないと言われています。

平成28年（2016）熊本地震により被災しましたが、地元の方々によって修復されています。



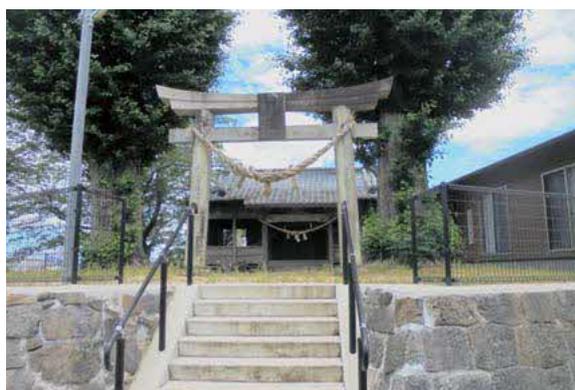
## 221. 古閑菅原神社（所在 古閑区）

古閑公民館と同じ敷地内にあります。

本殿は流造銅板葺平入、拝殿は入母屋造瓦葺平入で祭神は菅原道真です。本殿中には間口80<sup>㍎</sup>、奥行45<sup>㍎</sup>、高さ130<sup>㍎</sup>の厨子があり、中には二体の神像が祀られています。左は台座が8<sup>㍎</sup>、像高50<sup>㍎</sup>、幅40<sup>㍎</sup>の胸に梅の文様の衣を着衣した菅原道真像です。右は台座6<sup>㍎</sup>、像高26<sup>㍎</sup>の木造女神坐像です。

元は辺場の小高い丘に住む人々により守られていましたが、加藤清正の河川改修により現在地に移設されました。

また、拝殿の左には台座120<sup>㍎</sup>、高さ180<sup>㍎</sup>の石碑があり、碑文には「寛文十年（1670）南無天満大自在天神 七月吉日」と記されています。平成28年（2016）熊本地震により被災しましたが、地元の方々によって修復されています。



## 222. 古閑の墓碑（所在 古閑区）

白旗橋から古閑区へ入り、約 130<sup>㍎</sup>北の県道御船甲佐線沿いにあります。

砂岩製で高さ 114<sup>㍎</sup>、最大幅 71<sup>㍎</sup>、最大厚 28<sup>㍎</sup>です。銘文から元禄 4 年（1691）11 月 12 日に大武山真興寺を中興した「宇□」の墓碑であることがわかります。

法名に积号が使用されていることから、真興寺は浄土真宗の寺院と考えられます。



## 223. 宝珠山 光西寺（所在 古閑区）

宗派は浄土真宗本願寺派で、本尊は阿弥陀如来です。

瓦葺寄棟の本堂には御拝口があります。

『肥後国誌』によると、阿蘇大宮司惟種の家臣の寺尾市蔵の子である了尊が甲佐郷山出村宝珠山の麓に一字を建立し、光西寺の寺号公称の許可を得た、とあります。『新甲佐町史』によると、承応 3 年（1654）開基とあります。

現在の光西寺は東福寺と合併したもので、『東福寺記』によると、東福寺は白旗村大字白旗にあった白旗山東福寺で、本尊が阿弥陀仏で、もとは天台宗で源為朝の建立になる祈願所であったとされています。明治 12 年（1889 年）7 月 25 日に東福寺と称し、大正 9 年（1920 年）12 月に両寺合併により光西寺と改称しています。



## 224. 八丁神社（所在 八丁区）

八丁公民館の隣にあります。

本殿は切妻造銅板葺平入、拝殿は切妻造瓦葺平入です。本殿内には厨子が二つあり、右の厨子は間口 78<sup>㍎</sup>、奥行 54<sup>㍎</sup>、高さ 170<sup>㍎</sup>の木造両開きで、中には像高 50<sup>㍎</sup>、台座 24<sup>㍎</sup>の木造天神坐像が祀られています。左側の厨子は間口 80<sup>㍎</sup>、奥行 56<sup>㍎</sup>、高さ 175<sup>㍎</sup>で、中には像高が 55<sup>㍎</sup>、台座 24<sup>㍎</sup>の木造天神坐像が祀られています。天神の衣は金・朱・青等で彩色されていて胸に梅が描かれています。

元は北鶴という場所にありましたが、天和 3 年（1683）に現在の地に移転したいと公儀こうぎへ願い出たと伝えられています。



## 225. 八丁十一面観音堂（旧：八丁観音堂）（所在 八丁区）

八丁神社から約50m北にあります。

入母屋造瓦葺妻入のお堂は、間口224㍻、奥行284㍻で東向きに建っています。中には、総高112㍻、像高75㍻、丸太の台座が30㍻、蓮華台が7㍻の木造十一面観音菩薩立像が祀られ、衣は金色に彩色され、左手の蓮の花は消失していますが、阿弥陀如来の化仏と十一面観音は残っています。両脇には、布袋像と木造地藏菩薩像が祀られています。



## 226. 八丁十一面観音堂の石造物群（所在 八丁区）

八丁十一面観音堂前の池の周りに板碑が四基、灯籠一基、五輪塔の各部石材（空風輪四基、火輪六基、水輪一基）があります。

四基の板碑は全て砂岩製で、この内建立年が確認できるものは一基で、高さ75㍻、最大幅41.5㍻、最大厚574㍻で、上部の月輪内に卍が刻まれ、中央には「松屋栄秀」その両側に「永禄十三（1570）（下部土中）、左に「四月九日」とあります。その他三基は16世紀半ばから後半の建立と推定され、次の通りです。①高さ101㍻、最大幅52㍻、最大厚25㍻で、蓮座の上の月輪内に釈迦如来を表す種子「バク」が刻まれています。②高さ75㍻、最大幅41.5㍻、最大厚57㍻で、上部の月輪内に阿弥陀如来の種子「キリーク」が刻まれています。③高さ62㍻、最大幅30㍻、最大厚41㍻で、上部の月輪内に大日如来の種子「ア」が刻まれています。



また、灯籠は凝灰岩製で竿部正面に「奉寄進」、右側面に「明治九年（1876）五月建」、左側面に「世話人 / 小山田仙七 / 小山田善吉」、裏面に「小山田遊船敬」とあります。

## 227. 八丁の板碑（所在 八丁区）

八丁十一面観音堂から約50m北東の個人宅（伝小山田本家跡）にあります。

高さ73㍻、最大幅27㍻、最大厚19㍻の砂岩製です。上部の月輪内に阿弥陀如来の種子「キリーク」の文字が刻まれています。板碑中央には「道光」とあり、右側面には「小山田家祖先 / 美濃守墓 / 天文十六年（1547）二月六日也」の追刻銘がみられます。なお、同所には五輪塔の残欠も多くみられます。



## 228. 山出六地藏（所在 山出区）

県道嘉島甲佐線の山出区入口にあります。

山出六地藏は、塔身が円柱形の宮崎県でよく見られる形状です。高さは250㌢、台座の部分は、享保2年（1717）に補修されました。

地藏塔は、室町初期のころから各地に建立された地藏信仰の塔で、仏教では人間は六道の世界で生まれ変わると考えられ、その輪廻を救済するのが地藏菩薩です。横には、法界萬靈塔ほうかばんれいとうがあります。

平成28年（2016）熊本地震で倒壊しましたが、地元の方々により復旧されています。



## 229. 山出神社（大武宮）（所在 山出区）

山出公民館の前にあります。

本殿はトタン葺、拝殿は入母屋造瓦葺平入で向拝があります。本殿の奥には、高さ64㌢、最大幅52.5㌢の木製台座上に直径24㌢の阿蘇社を表す違い鷹羽の紋が入った鏡が祀られています。

御祭神は天照皇大神たけつのみのみこと、健角身命あまのこやねのみこと、八井耳玉命、住吉大神、天兒屋根命、応神天皇、健磐龍命です。

鎮西八郎為朝が雁回山に住んでいた時、矢が落ちた所に自分が崇敬する神を祀ろうと祈り、白羽の矢を放ち、落ちたところを白旗山と称し、その山の西の麓に社殿を建て為朝の七柱を祀り「大武宮」おおたけぐうと称したとされます。

平成28年（2016）熊本地震により被災しましたが、地元の方々によって修復されています。



## 230. 山出板碑（所在 山出区）

山出神社の鳥居の傍らにあります。

高さ約73㌢、幅約84㌢、厚さ約8㌢で、上部の月輪には、阿弥陀如来（キリーク）と釈迦如来（バク）を表す種子、下部には霊月妙龍、妙訓の名が刻まれています。碑文の銘文には「天文十九年（1550）四月十六日に山出神社の神宮寺である大應寺住職の節山善忠が無縫塔一基を建立した」由縁を述べています。また板碑の横には無縫塔の一部があります。



### 231. 魚住源次兵衛碑（所在 山出区）

山出神社の約 300<sup>㍎</sup>北東の山裾にあります。

本名を勤<sup>いそし</sup>といい、文化 14 年（1817）生まれの熊本藩士です。弘化 4 年（1847）鉄砲頭となり、嘉永 6 年（1853）アメリカ東インド艦隊司令長官ペリーが軍艦四隻を率いて浦賀に来航した際に、藩命により浦賀の警備についています。

肥後勤王党の穏健派の中心人物で藩論を勤王に統一しようとした建白書を藩主に提出しています。

明治 13 年（1880）9 月 16 日に 64 歳で死去しました。



### 232. 園田神社（古神社）（所在 山出区）

山出区にある園田神社は、民家の敷地に建っています。

切妻造瓦葺妻入のお堂には、室町時代前期と伝えられる男神像と女神像が祀られています。

園田神社は通称「こがみさん」と呼ばれ、天正（1573～1592）の頃、薩摩島津氏への内通者と疑われた井芹一族七十余人が討たれた歴史を忘れないため、昭和 9 年（1934）に建立されました。また、七十余人の霊魂を慰める記念碑も山出区にあり、毎年 2 月 15 日に供養が行われています。



### 233. 山出薬師堂（所在 山出区）

山出神社から約 400<sup>㍎</sup>北東にあります。

入母屋造瓦葺平入のお堂は、間口 376<sup>㍎</sup>、奥行 284<sup>㍎</sup>で、格子扉の中の厨子には総高 70<sup>㍎</sup>、像高 58<sup>㍎</sup>、台座 12<sup>㍎</sup>の蓮華台に金彩色の木造薬師如来坐像が祀られています。

この地区は、古くは「薬師村」、「城村」と呼ばれ、村の守り仏として薬師如来を祀り、病や苦しみを癒やしたといわれます。

祭日は 9 月 28 日です。



### 234. 芝原巖島神社（所在 芝原区）

芝原区のほぼ中央にあります。

切妻造瓦葺平入の拝殿正面には、梅の紋があります。本殿内には3つの厨子があり、中央の厨子は間口73センチ、奥行60センチ、高さ129センチの両扉で、中央に総高35センチ、幅35センチの木造男神坐像、右に総高24センチの木造女神坐像、左に総高17センチの随神坐像が祀られています。右の厨子は間口49センチ、奥行50センチ、高さ100センチで、左に総高15センチの女神像、右には総高15センチの男神像が祀られています。左の厨子は右側と同じ大きさで、左は総高18センチの男神坐像、右は総高21センチの女神坐像で彩色してあります。



神社敷地隅には三体のお面があり、赤は火の神、白は風の神、青は水の神といわれています。

平成28年（2016）熊本地震により被災しましたが、地元の方々によって修復されています。

### 235. 芝原のキリク種子板碑（所在 芝原区）

芝原巖島神社の約70メートル南の墓地内にあります。

高さ97センチ、幅80センチ、最大厚27センチの安山岩製で下部左側は抉れています。上部の月輪内に阿弥陀如来を表す種子「キリク」の文字が薬研彫りされ、その下に蓮座を刻み、月輪の下に花卉の一部がはみ出しています。その下には「預修」や「頓證（土中）」、「宿植徳本／善苗秀水／月弧妙圓」、「祟永禄元年（1558）十（土中）」の銘文があります。

このことから、宿植徳本らによる逆修供養を行ったものと思われる。



### 236. 芝原のウン種子板碑（所在 芝原区）

芝原のキリク種子板碑から約40メートル南東の個人宅にあります。

高さ70センチ、幅60センチ、最大厚20センチ、直径190センチの砂岩製でブロックで円形に囲まれています。上部の月輪内に愛染明王や軍荼利明王などの種子「ウン」の文字が刻まれています。その下には「道休禅門／□休禅尼」とあり、更に文字が記されていますが、判読できません。また、板碑の右側には2行の銘文があり、左側には紀年銘が刻まれているが、どちらも摩滅して判読できません。



この板碑の戒名から、夫婦による逆修供養を行ったものと思われる。この板碑は、種子にやや力強さが欠けることから、16世紀半ば頃の建立と思われる。

### 237. 吉田神社（所在 吉田区）

吉田区集落の南側にあります。

本殿は切妻造銅板葺平入、拝殿は入母屋造瓦葺平入です。

厨子は三つあり、正面の厨子は間口79センチ、奥行38センチ、高さ112センチです。中には二体の木造坐像が祀られており、左は総高56センチの男神像、右は総高45センチ女神像です。



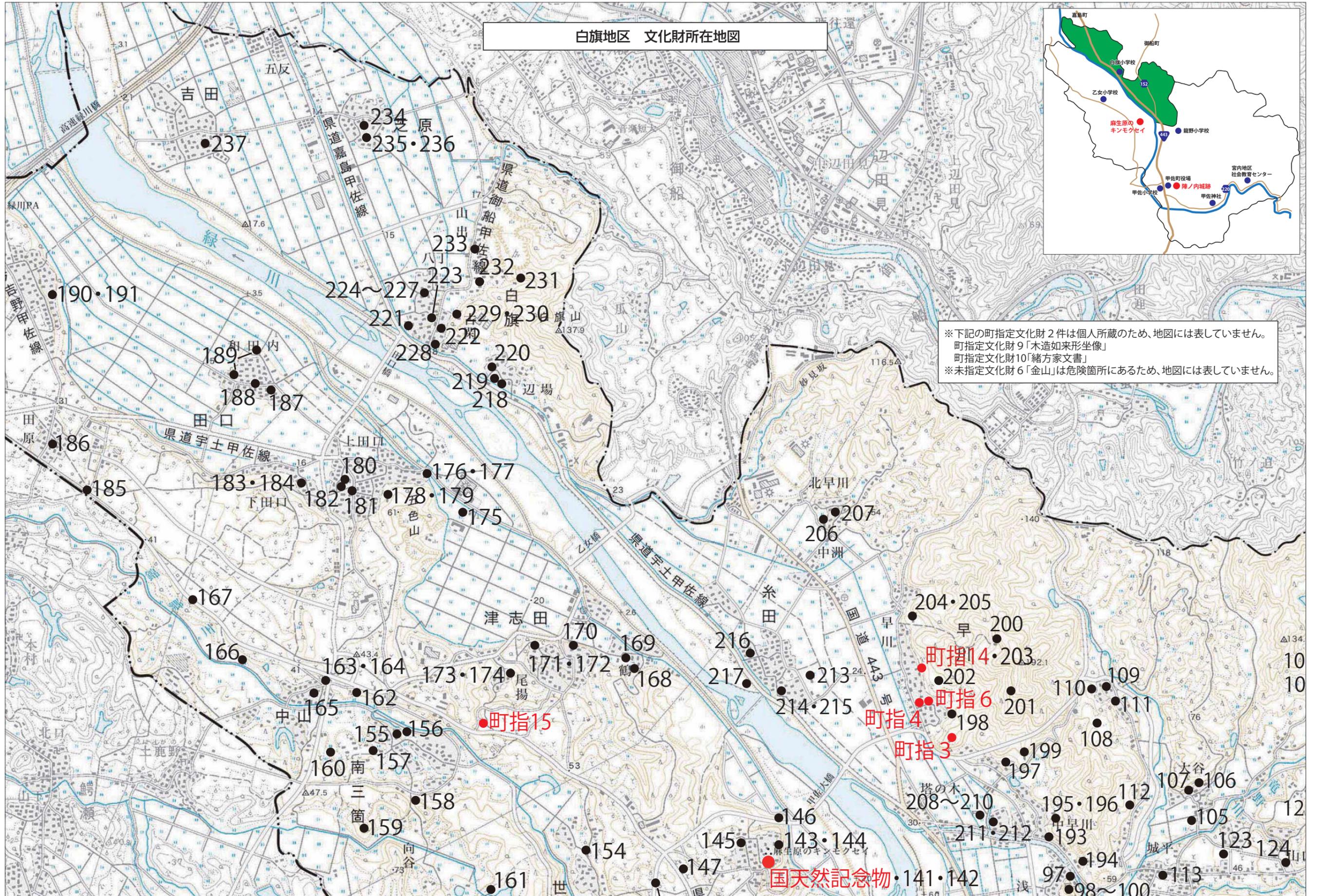
右の厨子は間口62.5センチ、奥行39センチ、高さ97センチです。中には左に高さ23センチの木造男神像、右は高さ24センチの木造女神像で、二体とも梅模様の衣を着ています。左の厨子も右と同じ大きさです。中には木造男神像が二体祀られています。左は高さ40センチ、上が青色、下は濃い緑の衣を着ています。右は高さ40センチ、桐と菊の紋が入った桃色の衣を着ています。

吉田区は加藤清正の河川改修の後、新しい地域として誕生しました。その際、新しく神社も創建され、ご神体に菅原道真を祀り、年1回（12月10日前後）衣替えが行われます。

平成28年（2016）熊本地震により被災しましたが、地元の方々によって修復されています。



白旗地区 文化財所在地図



※下記の町指定文化財2件は個人所蔵のため、地図には表していません。  
 町指定文化財9「木造如来形坐像」  
 町指定文化財10「緒方家文書」  
 ※未指定文化財6「金山」は危険箇所にあるため、地図には表していません。